

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



KEIWA

COLLEGE REPORT

第 34 号

April 2003

発行 / 敬和学園大学広報委員会



新井明学長 就任

新井明学長インタビュー 「木を育てるように」

第9回卒業式 / 卒業にあたってのメッセージ

人気授業をサーチする「文学」パリ文学散歩

永野先生、ヒューズ先生からお別れのメッセージ

長期自由留学制度がスタートします

学内合同企業説明会が開催されました

卒業生の自主制作映画「島に見える街」上映のご報告

2003



去る3月20日（木）、第9回卒業式の終了後、新潟グランドホテルに会場を移し、卒業生（第9期生）主催の盛大な「第9回卒業謝恩会」が行われました。この謝恩会は今年社会に巣立つ卒業生が公私ともに支えてくださった大学教職員並びに保護者の方々への感謝を表すものです。恩師を囲んで、楽しかった大学生活を思い起こし、時間を忘れるほど会話が弾む会でした。また、毎年この謝恩会の運営に対し、ご援助いただいております本学後援会様には卒業生に代わりまして心より感謝申し上げます。

もくじ

新井明学長インタビュー「木を育てるように」…	1	退職された先生がた 永野先生 ……………	9
第9回卒業式のご報告 ……………	4	ヒューズ先生 ……………	9
卒業生はいま「中国で先生をしています」 ……	4	「長期自由留学制度」がスタートします ……	10
卒業にあたってのメッセージ ……………	5	長期留学に参加して ……………	10
人気授業をサーチする「文学」パリ文学散歩 ……	6	学内合同企業説明会を開催しました ……	11
クラブ紹介「女子バスケットボール部」 ……	6	寄付者ご芳名 ……………	11
今年度から開講される科目のご紹介 ……	7	卒業生の自主制作映画「島に見える街」ご報告 ……	12
訪問介護員2級が取得できます ……………	7	学事予定 ……………	12
北垣前学長さよなら講演会・送別の会のご報告 ……	8	キャンパス日誌 ……………	13

<表紙写真> 第9回卒業式にて

本学では、卒業生1人ひとりに学長から卒業証書が手渡されます。

新井明学長 就任インタビュー

新井明学長インタビュー

「木を育てる喜び」

敬和学園大学の二代目の学長に就任された新井明先生に話をうかがいました。米国留学時代に知り合った前学長の北垣宗治先生との交友や、敬和学園大学との様々な「縁」のほか、今後、敬和学園大学が目指す教育のあり方などを率直に語ってくださいました。



お忍びで家内を連れて新発田に参ったのですが、妻もこの土地を大いに気に入ったようでした。

鶴岡で通っていたのは、今でいうと鶴岡南高校だと思います。そこを卒業する前に神奈川県湘南高校に転校してしまいました。鶴岡にいたということが私の人生に大きな影響を与えてくれました。例えば、実家はクリスチャンではありませんでしたが、キリスト教に接することができたのも、鶴岡時代の英語の先生を通じてでした。鶴岡がなかったならばキリスト教に接するということは決してなかったわけですし、「鶴岡が自分の出発点だな」と、あとから考えるときづく思います。

●新井学長の出発点
——まず、学長のこれまでの経歴をお聞かせください。
大学に入る前の五年間ほど、疎開のため山形県の鶴岡にいました。鶴岡ですから、上京するときには必ず新発田を経由していました。昨年十二月の初めに、学長に就任するのに先立って、誰にも伝えずに、

当時、私は小学校の先生になろうと思っていたのですが、父は反対で、高校の担任の先生と相談したらしく、担任の先生が「先生になるなら、東京教育大学に入れ」と強くおっしゃったので、結局、東京教育大学の文学部に入りました。

入学したのは昭和二十五年で、そのころは、入学時には専門学科を決めずに二年次で学科を決めることになっていたので。

私は英文科を選びました。横文字というのは若いときでないとダメだと思ったからです。最初、大学院に行く気はなかったのですが、ある友人が私に強く「大学院に行け」と推奨するものですから、指導教授とも相談して進学しました。

大学院に入ってから、ある恩師が内村鑑三奨学金への応募を強く勧めてくださいました。そして、内村鑑三や新島襄の母校でありますアーモスト大学で二年間勉強しました。

●北垣宗治前学長との出会い

——アーモスト大学といえば、北垣前学長も留学されていましたか。

そうですね。アーモスト時代には、北垣さんもちょうど留学されていた時期でしたので、一学期ほど、ご一緒しました。北垣さんとの長い交友はこのときに生まれました。アーモスト大学で学んだ後に、さらにアーモストから奨学金を受けることができ、一年間、ミシガン大学の修士コースで勉強しました。ミシガン大学への進学について、当時のアーモスト大学のコール総長が私に「新井くん、私は日本へ行って終戦直後の荒廃した姿を見ているが、あんなところで勉強するのは大変だ。だが、いずれあなたは日本に帰って働かなければならない。だから、アメリカには長居しない方がいい」とおっしゃいました。とても思慮深い指導だったと今でも感謝しております。

日本へ帰ってきてから、まず、名古屋大学で七年間、その後、母校の東京教育大学

新井明学長 就任インタビュー

で九年間、教鞭をとりました。東京教育大
学が筑波大学になる際、北垣さんは、当時
教えていらした同志社大学に私を強く誘っ
て下さいましたが、結局、大妻女子大学
で教えることになりました。そこで四年、
それから日本女子大学に呼ばれて、日
本女子大学に十九年おりました。大妻女子
大学に移った昭和五十二年以降はずっと女
子大ばかりでしたね。

●そして敬和学園大学へ

日本女子大では学生への教育とともに、
いろんな仕事を担当しました。学生生活部
長や文学部長をやりましたし、保健関係施
設の担当理事、総合研究所長なども務めま
した。やっと二〇〇〇年三月に退任し、そ
れまでなかなかできなかった仕事に取りか
かっているところでした。

その後、いろいろな大学から学長の要請
があったのですが、もうセイセイして(笑)、
全部断っていました。ただ、この敬和学園
大学からの話があったときには、結局は断
れませんでしたね。

—それは、どうしてでしょうか。

まず、北垣さんのご縁があったため
です。あの勉強好きな人が大変な苦勞をして、
ここまで敬和学園大学の教育を発展させて
きたことに心を打たれました。「北垣さん
は、ろくろく本も読めなかっただろうな」
と想像すると、同情心すらわいてきました。
そして、それとは別に敬和学園大学と不
思議な「縁」がいくつもあったという理由

もあります。敬和学園大学開学準備の際に、
北垣学長の前に敬和学園大学の学長予定者
だった野本森萬さん(それ以前は面識がな
かったのです)が、私のところに何回か熱
心にお越しくださいます、教員の人事関
係の相談などを受けました。

その折に、私は敬和学園高校というのが
同志社系の高校だと思っていたので、北垣
さんに連絡を取って、「北垣さん、新島襄
の影響のある土地だから、中心人物を一人、
二人、推薦してください」と強く言いまし
た。それで、北垣さんも数人、選んでくだ
さったようです。私も同時に適任と思われ
る人物を推薦しました。



その後、文部省から敬和学園大学の設置
許可が得られないかもしれないということ
で、開学が先延ばしになったのですが、一
年経ったときに、今度は、北垣さんから電
話があって、「僕が学長予定者にさせられ
ちゃったよ」というから、「だからあなた、
あのとき一生懸命人を探さなかったから
だ」と言って、二人で大笑いしたのですけ
どね(笑)。

●摂理の声

北垣さんとは親しいですから、なにかお
書きになると、私のところに必ず送ってき
ます。そのため、敬和学園大学がどうい
うふうに進んできたのか、ということはずっ
と知っておりました。教育理念もわかって
おりましたし、その理念には大賛成でした。
「日本にこういう学校がなくちゃいけない」、
そう思っている学校でした。

私が勤めていた日本女子大学は成瀬仁蔵
が打ち立てましたが、成瀬はその前に、新
潟で伝道をし、今の新潟教会を建てました。
そして、新潟女学校と男子校の北越学館を
建てたのです。私が敬和とご縁だと思ひ
ますのはそういう点です。成瀬が建て、数
年にしてなくなっていく新潟女学校と、
北越学館というものに対する一種の思い入
れのあった方々が、敬和学園大学開学に動
いた方々の中にいらしたと聞いています。

また、私は直接には内村鑑三の影響を受
けてキリスト教徒になっていったわけでは
ありませんが、内村鑑三もアメリカから帰っ
てきたときに、北越学館に呼ばれて教頭にな
っています。私の精神的な源流である内村
の関わった学校でもあります。

敬和の学長に就任することは、キリスト
教の表現で言えば、摂理ですね。「摂理の
声を聞いた」といったらば、ちよつとキザ
に響くかもしれませんが、本当のところは
そうなんです。 「行け！」と言われたと
いう感じがしました。

新井明学長 就任インタビュー

●教育と対話

——先生の教育観を教えてください。
頭の教育、知育。それから徳育、すなわち、心の教育。さらに、もう一つは体育。この三つを教育の根底に置き、個人の尊厳というものを培っていくのが重要です。

知育の部分は、リベラルアーツの精神である「思想の自由」というものにつながります。人間の尊厳というものをお題目ではなくて、本当に重んずる教育をすることが重要で、す。リベラルということは奴隷状態からの自由ということで、「自由人」ということが特殊な意味を持つていたと思います。知育と徳育と体育を合わせて、それで人間に授かった人間の個人の尊厳というものを育成していく。若者が育っていくときに、横にいて育っていくのを助けてあげる。育つのを助けるというので、かつては助育という言葉もあったのです。それは戦後アメリカの教育使節団が日本へ来たときに、残していった言葉ですが、助育という言葉はいい言葉だと思えますね。人の持っている価値の育っていくのを、脳で見えて助けてあげることが教育者の基本的態度じゃ



ないでしょうか。ですからある個人が悩みを持つていけば、つまらない悩みも多いんだけど、やはり、聞いてあげることが必要ですね。

——「対話が重要」ということでしょうか。
そうですね。私が日本女子大学の学生生活部長のときの経験ですが、様々な悩みを抱えている学生に接しました。最大の悩みは、やっぱり家庭の問題ですね。自殺を考えるまでいかにしても、過食症と拒食症になってしまっていた学生がおりました。治すの一番いいのは、やっぱりその人の立場に立って対話をしてあげることですね。これは絶対です。ですからどんな忙しいときでも、真剣になってきたときには、やっぱり二〇分でも三〇分でもいいから話を聞いてあげるといことが大事ですね。実にそう思いました。敬和学園の先生方というのは親切な方が多いと思うので、そんなことを私が言う必要はないと思えますけれど、よく若い人たちの話を聞いてあげるとい姿勢、語るじゃなくて、まず聞くとい方をすると、対話することで、随分、私自身、何人もの人を救うことができました。

●木を育てるように

——ところで、森林の保護と育成に、とても関心があるということですが、木を育てるといものと、人間を育てるといものと共通しているところがあるのですよ。木を育てる気持ちがない人は、人

間を育てられない。木というものは、手入れがとんでも大変で、放っておきますと、木がみんな細くなったまま倒れていってしまいます。三重県に愛農高校という学校があり、私はその理事をしている関係で、木にはとっても興味があります。敬和学園大学のキャンパスの木の手入れはすごくいいですね。木は育てないとダメです。だから卒業生に木を一学年一本ずつ植えさせるといいかもしれません。

——最後に、学長としての今後の抱負を。

北垣さんが続けられてきた教育をさらに発展させることが重要です。北垣路線を継承し、教職員全員と協力して、少しずつ、前進していこうと思っています。

——ありがとうございます。

(聞き手 広報委員会)

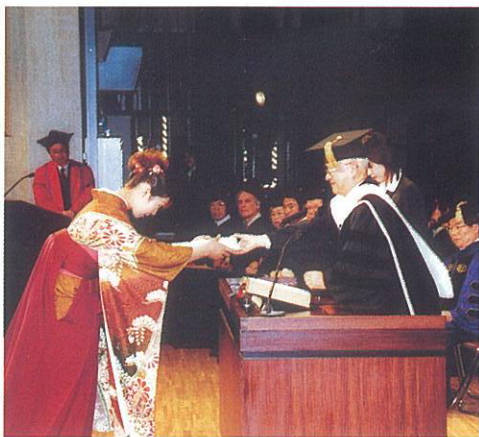


卒業式

第九回 卒業式

敬和学園大学第九回卒業式が、去る三月二〇日（木）聖籠町民会館で行われ、一八四名が希望に胸を膨らませながら社会に巣立って行きました。

卒業式は、オルガンの前奏が鳴り響く中で始まりました。北垣宗治学長から卒業生一人ひとりに「卒業証書・学位記」が手渡されました。今回は北垣学長にとって最後の卒業式となるため、心なしかその交わす手に力強さを感じました。北垣学長からの「敬和学園大学が私を作った。私が敬和学園大学を作った。」というメッセージは、卒業生諸君の心に忘れられないものとして残ったことでしょう。



渡邊聖籠町長様、片山新発田市長様から「祝辞を頂き、また多数のご祝電も披露さ

れ、これから大きく社会に羽ばたく卒業生たちを励ましてくださいました。

卒業生代表として、国際文化学科の田中正範さんが「学長が言われた『大学は面白いところだ』ということはこの大学での人との出会いの中に実感しました。敬和学園大学で人格を磨き、国際的視野を広げ、人類の養ってきた英知を学んだことは私たちの未来への礎となります。」と答辞を述べました。

毎年行われている卒業表彰では、成績優秀者として田中正範さんと田中奈緒子さん、他五名が表彰され、それぞれ記念品が贈られました。

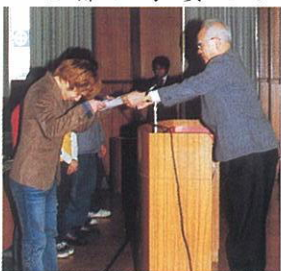
最後に、卒業生を代表して伊関望さん（卒業準備委員長）から卒業記念品として木製ベンチが大学に贈呈されました。

（学生部長 神田）

年度内表彰のご報告

本学では毎年、課外活動で優秀な成果をおさめた学生個人と学生団体を称えるために、「年度内表彰制度」を設けています。

二〇〇二年度は、敬和祭にて開学以来初めてとなる体育館でのプロのアーティスト（AJI）のライブを成功させた敬和祭実行委員会が、また学生団体としてはプラスチック部が表彰されました。



卒業生はいます
中国で先生をしています



二〇〇一年度卒業生
坂上 真理子

私は現在、中国の長春というところで日本語教師として働いています。大学に入学して以来、外国で仕事をするのが夢だったので、思い切って中国にきました。

今は華橋外国語学院で一年生（初級）の会話を担当しています。素直で一生懸命勉強する学生が多く、授業の始まる前や放課後にもみんな真面目に勉強しています。この真面目に勉強する姿勢の影響か、彼らは中学や高校で学習した英語を自然に話すことができます。私も英語を話したいと思っ

ていながら、留学すれば英語が話せるようになるという甘い考えで努力不足だったと思います。学生に「先生の専攻はなんですか。」と聞かれると恥ずかしくなります。

また、この学校の特色の一つでもあるのですが、中国人の他に、アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ、ロシア、韓国といった様々な国の先生方がいます。彼らはとても親切でフレンドリーな方達ばかりです。私たちはよくパーティーを開いてお互いの国の料理を作ってごちそうしあっています。私も「天ぷら」、「肉じゃが」、「のり巻き」などに挑戦しました。

私は、このような環境の中で仕事ができる本当に良かったです。もちろん仕事は大変で、わからないことや悩んだりすることも多いのですが、他の先生方や学生に助けていただいていた何とか頑張っています。

卒業にあたって

敬和での出会い



英語英米文学科 卒業
田中 奈緒子

敬和で過ごした四年間は、初めて会う人、初めての経験ばかりでした。授業は大変でしたが、高校までの授業と比べるとずっと面白いものでした。それは、受身ではなく自分から参加して学んだからだと思います。例えば、授業では意見を発表したり、議論することもありました。自分にとって

勇気のあることでしたが、周りの人が積極的に発言するのを見て刺激を受け、少しずつ自分も出来るようになりました。参加することで、学ぶことにやりがいを感じました。

授業の中でも、ゼミは特に良い経験でした。私が履修していたブロンデ先生のゼミ



では、外国映画を見て文学を学びました。先生の豊富な知識や、表情豊かな話しぶり

はとても楽しいものでした。ゼミでは二年

間を通して十一作品を鑑賞し、中でも心に

残ったものは、「素晴らしき哉、人生！」

という白黒映画です。すてきな話なのでみ

なさんにもおすすめします。また、先生と

英語でコミュニケーションをする機会も多

くあり、英語を話すことに少し度胸がつい

たと思います。

四年間で、友達をはじめ、クラスメート、

教職員の方など、多くの人に出会うことが

出来ました。个性的で魅力的な人ばかりで、

良い影響を受けました。卒業後も多くの人

と接して、もっと成長していきたいと思っ

ます。

四年間を振り返って



国際化学学科 卒業
田中 正範

何を思ったのか、深く考えもせず、社会人学生として入学式に臨んでいたのが四年前でした。その後も自然体で過ごせたよう

な気がします。仕事・家庭・地域等の関係

の中で、履修科目の選択、時間割に苦労し

たこと、時間的に追われることがありまし

たが、それが逆に講義・読書・レポート作

成等に体力を集中させることができたよう

です。反省点としては先生に質問し、議論

をし、先生の知識をさらに吸収すべきだっ

たと後悔しております。

大学は国際交流・異文化体験の場でもあ

りました。観光旅行と一味違う中国、米国

旅行は楽しく有意義な異文化体験でした。

それにもまして有意義であったのは、中国

からの留学生の何為民さんとの交流でし

た。彼から異文化を学んだことは勿論、そ

れは彼の人柄によることなのですが、敬和

での若い人たちとの交流は全て彼のつなが

りの中での体験であったようです。四年間

を楽しく過ごすことができたのは彼の存在

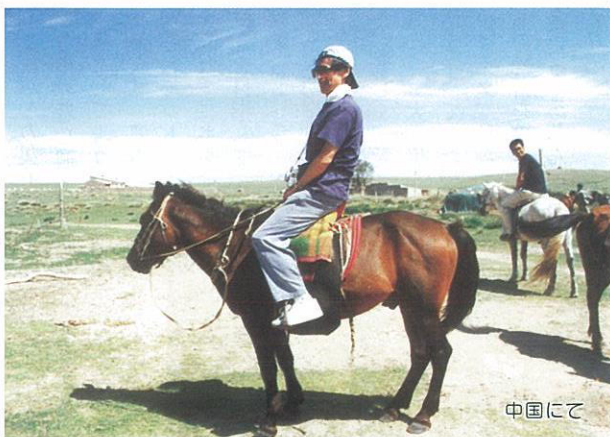
のおかげでした。

中高年になっても、この阿賀北の地でリ

ベラル・アーツを学び、上滑りでない国際

文化交流を考え、出会いにめぐまれ、実行

できるのが敬和学園大学の特徴でした。



中国にて

人気授業をサーチする

「文学1、2」パリ文学散歩

「行動する文学」

教授 若月忠信

教室の講義だけでなく、いろいろな文学的現場へ出かけて、活字の世界に新しい楽しみをつけ加えます。これまで、新潟市内や新発田市内、そして佐渡での文学散歩をやってきました。

メイン・イベントは、卒業旅行を兼ねた、「二月のパリを歩く」という計画です。凱旋門やシャンゼリゼ通り、エッフェル塔やセーヌ川などをみんなで歩きまわります。地下鉄の乗り方を覚えたら、グループになって自分の街を歩くようにパリを見まわります。

ヘミングウェイ
イ文学の舞台と
なったカフェ・
ブーケや映画に
なったボンヌフ
橋、サンジェル
マン・デプレ教
会やカフェ・ド



ウ・マゴーはサルトル、ポーボワールの文学的世界。足を伸ばせば、モンサンミッシェルやピカソ美術館への旅も可能です。一緒に世界に向けて行動しましょう。

パリの思い出

国際文化学科二年 大須賀 悠

一番面白いな、と思ったことは、ルーブル美術館に入るのにガラスのピラミッドの中へ入って地下に降りていくことでした。私は今まではただのオブジェだと思っていたので、かなり驚きました。中はとても広く、あちこちで写生や模写をする人達が目立ちました。開館直後にもかかわらず、大変混んでいたことも印象深いです。ベルサイユ宮殿にも行ってきましたが、そこは思いの他に

広く、全てが豪華絢爛で、感心する反面、呆れたりもしました。

この他にもオペラ座へ行ったり買い物をしたりしました。そして、ツアーでは



ない、自分達の手で行動する旅と言うのはやはり面白いと再認識するに至りました。今度はもっと長くて、さらに多くのことを知ってこれたらと思います。

クラブ紹介 女子バスケットボール部

明るく、楽しく、元気よく

英語英米文学科三年 高橋 智美

私たち女子バスケットボール部は二〇〇一年に「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに結成されました。とは言っても、初めは部員も少なく、指導者などいるはずもなく、そして満足な練習もできずに存続が危ぶまれた時期もありました。しかし、男子バスケットボール部の協力の元、練習を続け、周りの方にも暖かく励まされ、困難を乗り越えてきました。そんな努力も実ったのか、昨年の十月には新発田市民総合体育大会で三位入賞、そして十二月には念願の公式戦初出場を果たすことができました。

これからの女子バスケット部は、この春から指導者を迎え、「新生」女子バスケット部としてようやく軌道に乗ることができそうです。これからも部を立ち上げた頃の初心とモットーを忘れずにさらに上を目指してがんばります。乞うご期待！

そして「明るく、楽しく、元気よく」大学生活を送ってみたいアナタ、私たちの練習をのぞきに來ませんか？



左が高橋さん

業 授

今年度から開講される科目のご紹介

今年度から新たに開講される科目を紹介
します。

●「ホームヘルプ・サービス論1、2」

訪問介護員（ホームヘルパー）二級の取得を目指した科目です。本学の前ボランティア・コーディネーターで老人福祉施設「からし種の家」の理事長・施設長ならびに愛泉伝道所の牧師である山崎ハコネ先生が担当します。

●「児童英語教育入門」

「児童英語教育実践（歌とチャンツ）」
語学オプション・コースの科目で、小学校の総合学習などの英語教育に対応し、児童に英語を教える具体的で実践的な方法を学ぶことを目指しています。教職課程ばかりでなく、英語教育のインターンシップやボランティアなどにも役立つでしょう。児童英語教育の実践家である外山節子先生が担当します。

●「現代社会論1、2」

現代ジャーナリズム論や余暇社会論など新たな視点で広くコミュニケーションを考えるために開設しました。毎日新聞社の編集委員で本学客員教授の荒井魏先生が担当します。

●「文化交流論1、2」

コミュニケーションを文化間の接触、交流、摩擦という文脈で見るとしてあります。アメリカ留学が長く、政治・社会・文化などに精通している元中日新聞記者の前嶋和弘本学専任講師が担当します。

●「組織神学論」
●「新約聖書神学」

主に社会人を対象にしたイブニング・コースで、三年で一巡する神学基礎講座の三年目の科目です。キリスト教を深く理解したい人や、独学で牧師になる試験を受ける人のために開講されますが、本学の学生も履修できます。本学宗教研部長・国際文化学部長の延原時行教授と山田耕太教授が担当します。
(教務部長 山田)

科目カテゴリー	科目名	担当者	開講年次・学期	単位数
共通基礎・H群	ホームヘルプ・サービス論1、2	山崎 ハコネ	3年・前後期	各2
オプション・コース	児童英語教育入門	外山 節子	1~2年・通年	4
オプション・コース	児童英語教育実践（歌とチャンツ）	外山 節子	1~2年・通年	4
コミュニケーション・コース	文化交流論1、2	前嶋 和弘	3年・前後期	各2
コミュニケーション・コース	現代社会論1、2	荒井 魏	3年・前後期	各2
KCOP・神学基礎	組織神学	延原 時行	2年・前期	2
KCOP・神学基礎	新約聖書神学	山田 耕太	2年・後期	2

今年度より「訪問介護員二級」が取得できます

本学では建学の精神であるキリスト教主義に基づき、愛と奉仕を具体的に実践する教育プログラムの一環として、二〇〇〇年度より訪問介護員三級養成研修事業を実施してきました。そして時代のニーズにより、二〇〇三年度より新たに訪問介護員二級養成研修事業を開設することになりました。

訪問介護員二級の資格取得を希望する学生は、今年度より新設される「ホームヘルプ・サービス論」を履修することにより、更に高度な専門知識と技術を習得し、資格を取得することができます。

授業内容は、学内外の有識者による講義、実技講習に加えて、来年の春期休期中に予定されている実習（介護実習、ホームヘルプサービス同行訪問）で構成されており、厚生労働省所定のカリキュラムに基づいていますので、正しく的確な知識と技術を身につけることができます。

また、二〇〇三年度については、実習施設の受入人数等の事情により、受講定員を、三年次生以上で既に訪問介護員三級の資格を取得している学生三十名程度とする予定です。

訪問介護員の仕事を真に理解し、二級の資格取得に強い意欲を持つ学生諸君の受講を期待するとともに、これからの共に生きる高度福祉社会の形成と、地域福祉、在宅福祉に寄与することのできる優秀な人材が育っていくことを願います。

(ボランティア委員会)

北垣前学長 さよなら講演会

（終わりに初心輝く）

北垣宗治前学長さよなら講演会・送別の会

物事は、終わりになってしまうと、その本当の意味が分からないことがあります。敬和学園大学初代学長北垣宗治先生の教育哲学——一九九一年（平成三年）の開学以来十二年間にわたって先生が敬和で倦まず弛まず実践してこられた「生きた教育哲学」——について、第一に、思わせられるのは、このことです。まことに、「気配りと含羞の人」（北嶋藤郷英語英米文学科長）である北垣先生の真価は、そのように終末的＝啓示的であります。

そのことをつくづくと感じさせられたのが、このたび三月二十二日（土）午後四時から新発田市生涯学習センターで開催された北垣宗治学長さよなら講演会での先生の最終講義「ジェインズ、クラーク、ケリーの栄光と挫折」であります。いや、もう少し正直に申しませう。私は、この十二年間、米国での教員生活から先生の招聘を受けて赴任して以来、ずっと宗教部長としてそば近く仕えてきましたが、ここ最近の名説教、名講義、名論説には、ただただ驚くばかりでありました。今度の「高著『私の終わりに私の初めがある』の終章、同名の説教を一月二十四日（金）のチャペル・アツセンブリ・アワーにて拝聴し、私は先生の精神の発露をひそかに「北垣宗治現象」と呼ぶようになりました。その結語の一節にあります「私は十二年間という時を最善の仕方です生きてきたわけではありません。

多くの失敗もしてきました。しかし時をあげたて下さるキリストであるイエスに接続させていただくことにより、時はあがなわれるものと確信します。時だけでなく、夢もまたあがなわれます。私は敬和学園大学の成長と発展を確信しつつ、敬和学園大学のために祈り続けたいと思います。」

最終講義では、一八七一年開校の熊本洋学校で小崎弘道等いわゆる「熊本バンド」を育てたジェインズ、"Boys, Be ambitious!" というモットーで有名な札幌農学校のクラーク、そして同志社のアームストロングと寝食を共にして親しい薫陶を受けた



北垣先生にとつて「世界を覗き見るための窓のような存在」であるオーテス・ケリーの業績を、異文化体験という観点から分析され、その「栄光と挫折」を活写されました。ここに近代日本の教育にリベラル・アーツのいのちを与えた三名の米国人教育者の「時と夢」が、想像力豊かに証言されています。そのことの中に、私たちは、北垣前学長の「時と夢」を味わうのであります——深い継承の志のうちに。このとき、次の学長に先生のアームストロング留学時の友人・日本女子大学名誉教授新井明先生を迎えることは、なんと幸いなことでしょうか！

最終講義の後、壇上で同志社での教え子松崎洋子教授から花束を受け取られる北垣先生ご夫妻の満面の笑顔には、今から始めるよ、という気迫が感じられました。新発田ベルナルに席を移した送別の会では、山田耕太教授の司会で北嶋藤郷教授の主催者挨拶から始め、片山吉忠新発田市長、渡邊廣吉聖籠町長から来賓挨拶をいただきました。渡邊幸二郎オレンジ会長の乾杯の後、北垣前学長と交流のあった方々からのスピーチに時を忘れました。北垣前学長の挨拶となり、教職員、学校法人敬和学園役員、評議員、後援会役員、オレンジ会役員、同窓会役員、新潟・新発田・聖籠の自治体関係者、地域の北垣ファンの皆さん、卒業生・在学生の万来の拍手は鳴り止みませんでした。そして宇田川潔事務局長の中締めで名残惜しい会を閉じたのであります。「敬和学園は人の存在価値を追求する」という北垣提唱を、敬和人はみな拳拳服膺するであります（諸行事委員長 延原）

退職された先生がた

大きな恵みを得て



前国際文化学科教授

永野 茂洋

一九九二年の三月に赴任して以来、敬和生の皆さんには十一年間、主に「キリスト教史」と「比較文化論」の講義を中心にお付き合いをいただけてきましたが、この度その敬和学園大学から、横浜市戸塚区にある明治学院大学教養教育センターに移ることになりました。明治学院では唯一の全学必修クラスである「キリスト教史」と、「旧約学」を担当します。

敬和では、私は本当に学生に恵まれた教員の一人であったと思います。学問や勉学の上で優れた学生に恵まれたという意味ではありません。もちろんそういう学生も数多くいましたが、私が真に恵まれたと今思うのは、むしろ、どこか偏りのある、そして、何か胸につかえたような面持ちで、不器用そうに研究室の前に立っていた、そういう学生たちです。私のゼミは、またの名を「異人クラブ」と言って、当初からチュートリアルに力を入れたゼミでした。

彼らは「教師」を必要としていた学生たちでした。その必要に本当に十分に応えられたかどうか、自分では判断できませんが、「教師」としての自分を必要とする者を前に、私自身何度襟を正され、また、自分の力と限界を見つめ直してきたか分かります。これがここで恵まれたという意味です。私の力を越える問題を学生が抱えている

ときには、傍らにそれをケアできる力を持った助け手が同時に与えられているということも何度か経験しました。そのことに気づくようになったのは、ようやく最近になってからですが、これも私にとっては大きな恵みでした。

四月からは、非常勤講師として毎週木曜日に敬和に通います。それも含めて、これからは外側から、力の及ぶ限り敬和を支えていきたいと思っています。敬和は今大きな変革の渦中にあります。恐れることなく大胆に、そして社会の中での自分たちの使命（ミッション）を見失わずに、歩んで行かれることを心より願っています。

十一年間、ありがとうございました。そして、これからも、宜しくお願い申しあげます。

さよなら、そしてありがとう



前契約講師
メアリー ヒューズ

敬和の学生や同僚の先生、友達にさよならを言うのはとてもつらいことです。在籍した三年間はあまりに早く過ぎ去ってしまった。敬和に着任したのがほんの昨日のように思われます。日本で英語を教えるのは私の夢でしたし、敬和はその夢を現実のものとするチャンスを与えてくれました。

敬和は多くの美点を持っていますが、その一つが学生のみなさんです。みんなのおかげで、英語教師の仕事が好きになったんです。あなたの方のおかげで敬和で過ごした

日々は楽しかったですし、またみなさんが熱心に勉強する姿には感心しました。教室の内でも外でも、一緒に楽しい時間を過ごしましたね。あなた方は、自分では気が付いていないでしょうが、いろんな点で私を感動させてくれたんですよ。みなさんには夢に向かって進んでもらいたいし、自分の持てる力を出し切ってもらいたいんです。みなさんにもう会えないと思うと、とても寂しい気持ちです。

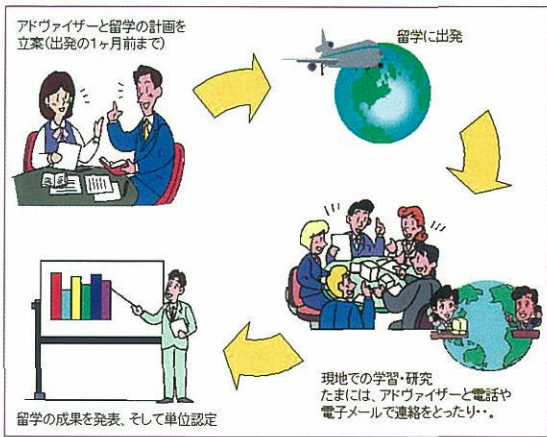
敬和でもう一つ忘れてはいけないのは、教職員のみなさんのことです。教職員のみなさんが、敬和を家庭のような親しみやすい雰囲気にして、今あるような素晴らしいところにするようにと努力されているのには、本当に感銘を受けました。みなさんの真心のこもったご支援とご助力があったからこそ、ここまでやってこれたのです。みなさんが私を毎日のように実務面でサポートしてくださったこと、また、私が入院した時など、私自身が困難な状況にあったときにも助けてくださったことなど、たいへんありがたく思っております。

さよならを言うのはつらいのですが、私はまだ日本を離れるわけではないとお伝えできるのはありがたいことです。敬和での貴重な経験があったおかげで、静岡県内の大学で専任講師として働くことになったのです。このもう一つの夢を実現することを支援してください。敬和のみなさんに感謝申し上げます。これからも折に触れて敬和にお邪魔すると思いますが、その時まで、しばしお別れです。

「長期自由留学制度」がスタートします

これまで敬和学園大学の留学制度としては、「短期留学プログラム」、「長期留学プログラム」そして「自由留学制度」がありました。今年度よりこれらに加えて、「長期自由留学制度」が導入されました。これにより、敬和学園大学生の留学のチャンスはさらに広がりました。

この「長期自由留学制度」により、自分で計画を立てて実施した長期海外留学に対しても、他の留学プログラムと同様に単位認定が行われます。自分にあつたプログラムの内容、時間数、または住みやすさや気候、コストなどさまざまなことを自分で選択し、演習担当の教員やアドヴァイザー等の指導のもと、計画を立てて留学します。



●留学先

今までの「長期留学プログラム」では、オーストラリア(メルボルン)とアメリカ(シアトル、アイオワ)の三ヶ所しか選べませんでした。が、「長期自由留学制度」では、さまざまな国のさまざまな都市から自由に留学先を選ぶことができます。



●学習プログラム

自分にあつた語学プログラム(もちろん英語以外の語学の研修も含みます)や、海外でしか得ることのできない貴重な体験、さらには演習等で学んだことの更なる探求など自由にプログラムを選択できます。

●実施期間

留学期間も半年または一年のいずれかを選択できます。この留学プログラムに参加して四年間で卒業できるのかと心配している方もいるでしょう。心配はいりません! 長期留学制度と同じように留学した期間はそのまま修業年限に含まれますので、四年間で卒業することができます。

また、留学先の授業料の全額または一部を奨学金として給付する制度も用意しています。詳しくは、本学教務課教務係にお問合せください。

(国際交流委員長 ブラウン)

長期留学に参加して



国際文化学科 三年
神田 篤志

僕は、大学の長期留学制度を利用して、八月から十二月までシアトルのワシントン・アカデミー・オブ・ランゲージズという語学学校に留学してきました。

授業を受け始めのころは聞いた英語を常に理解しようとしていたのでとても疲れました。そんな日々を一ヶ月過ごした頃、シアトルであつたイベント会場で、係員にわからないことを英語で尋ねている自分に気が付き、英語が上達していることを実感しました。たまに喫茶店に行つて、先生やクラスのみんなで雑談しているときには、家族のことや普段のできごとなど、いろいろなことを話し、いつもより口数が多くなっている自分に気がきました。

長期間アメリカに滞在していたので、語学研修以外にも、ハロウィンやクリスマスといった様々な行事を体験することができました。ハロウィンではかぼちゃのランタンを作りました。難しそうでしたが、やってみると意外に簡単でした。クリスマスではホームステイ先の家庭的な暖かさを感じました。こういった行事を通じてアメリカの文化に触れられたのは、長期留学ならではのメリットだったと思います。

これからは、留学先も自由に選べる長期自由留学制度がはじまるそうです。みなさんも様々な国のことばと文化に触れてみてください。

就 職

学内合同企業説明会を 開催しました

去る二月二十一日(金)、三年次生を対象とした「学内合同企業説明会」が開催されました。厳しい採用状況の中、六十三社の企業から多数の担当の方々にご出席いただきましたことに、改めてお礼申し上げます。

リラックスして参加できました 英語英米文学科四年 鈴木 奈津子

今回の学内合同企業説明会で、私は五社のお話を伺いました。私が希望している住宅関係の企業の方は、「以前、説明会でお会いしましたね」と覚えていてくださり、とても嬉しかったです。また、初めてお話をした企業については、それまで想像していたのと違うイメージを感じました。



資料を見ていたよりも、実際にその会社の方のお話を聞いたほうが詳しく業務内容について理解できますし、疑問に思ったことをすぐに聞くことができます。今まで何度か合同説明会に参加しましたが、学内の説明会は他に比べて参加人数も少なく企業の方と時間をかけてゆっくりお話ができるので、参加してとても良かったと思います。

就職活動を通じた自分磨き

国際文化学科四年 折笠 純司

合同企業説明会の前に、宮川就職指導室長から「自分の希望にこだわらず様々な企業のブースを回り、視野を広げ、色々な情報を得て欲しい」と言われましたので、職種にこだわらずに多くの企業を見て回ろうと思っていました。

しかし、思ったよりも企業の方との話が盛り上がったこともあり、たった三社しか訪問できませんでした。「次はどこに回ろうか」と悩んで、すぐ行動に移せなかったのは、やはり自分の中で職種へのこだわりや固定観念があったためだと思います。

今回、企業の方と接するうちに就職活動に対する恐れや不安もなくなり、自分に対することからコツコツやろうという前向きな気持ちになりました。また、企業の方からも「現実逃避しないで、就職活動頑張ってください」と勇気づけられました。社会に出てからコケないよう、就職活動を通して自分をとことん磨いていきたいと思っています。

寄付者ご芳名

- 一 般
- 板谷 八重子
- 伊藤 清子
- 日本キリスト教団東中通教会
- 日本キリスト教団佐倉教会
- 敬和学園大学後援会
- 一九九一組 小林 明子
- 新田 和子
- ワグナー 恵美
- 川本 正仁
- 塩谷 真澄
- 伊藤 宏之
- 一九九二組 下川 幹
- 一九九三組 金子 美由紀
- 一九九四組 山田 美穂
- 一九九六組 笠原 純子
- 大平 智良
- 一九九八組 五十嵐 亜希
- 二〇〇一組 古澤 由香



卒業生の自主製作ビデオ映画「島の見える街」上映のご報告

本学の三期生鈴木貴之さん監督による、「引きこもり」をテーマにした自主製作ビデオ映画『島の見える街』が二月十六日、二十二日に新潟市万代市民会館にて上映されました。両日とも超満員の盛況でした。

鈴木さんは在学当時から、教員を「強引に」出演（ほぼ全員が悪役）させたビデオシリーズで製作するなど、映画作りに興味を示していました。卒業後、「からし種の家」で働きながら学校に通い、現在は社会福祉士として働くかたわら、NGO「メンタルフレンドにいがた」の一員として引きこもりの人々を支援しています。

この映画の音楽担当も本学の五期生勝又圭介さんです。勝又さんは海外の大学での本格的なピアノの学習を目指しており、音楽教室でピアノを教える一方、世界のあちこちを飛びまわっている異色の卒業生です。ほかにもこの映画には多くの卒業生が関わっており、「敬和ネットワーク」の確かな存在が感じられます。（広報委員会）



島の見える街

原作 月乃光司

監督 鈴木貴之

今は、ここが居場所だから。



英語英米文学科四年 後藤 伸介

偏見を持たないことの大切さ

この映画の「引きこもり」というテーマは私にとつてとても関心のあるものでした。私自身、人付き合いはあまり得意ではなく、引きこもりの一歩手前のような状態になることが今までにしばしばありました。そんなこともあり、引きこもりの人間の苦しみにこの映画を通じて改めて共感したのですが、この映画では引きこもりを心の病気という消極的な見方ではなく、もっと明るいイメージで描いていました。

引きこもりの少年を取り巻く様々な登場人物もそれぞれ悩みを持ち、彼らの人生を精一杯生きていることがわかります。映画では「引きこもり」という悩みも他の人と同様、その人の生きていく上で直面する人生のハードルであって、病気ではなく、家の中と外と場所は違えどもみんな頑張っている自分と戦い生きている姿が描かれていました。引きこもりというものを特別視せず、登場人物全員が同じ様に「生きる」構図がそこにあったように思います。引きこもりなどの問題が深刻化している今こそ、そういったことに偏見を持たないことが大切だと、この作品を通じて感じました。

学事予告

◆四月◆

- 一日 学年始め
- 三日 入学式
- 新入生・保護者ガイダンス
- 四日 一年外国語ガイダンス
- プレイスメントテスト
- 四年ガイダンス
- 七日 二・三年ガイダンス
- 健康診断
- 八日 一年ガイダンス
- 健康診断
- 新入生歓迎学術講演会
- 「学問と教養」
- 八木誠「桐蔭横浜大学を創る教授

◆五月◆

- 九日 履修指導日
- 十日 前期講義開始
- 履修登録期間（十六日まで）
- 二十四日 一年生オリエンテーション
- （二十五日まで）
- 二日 休業（創立記念日の振替）
- 十二日 新潟市オープン・カレッジ
- 「地球時代の目で歴史を読む」
- （毎週月曜計六回六月十六日まで）

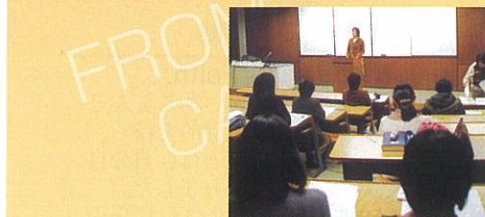
◆六月◆

- 七日 スポーツ大会
- 二十三日 創立記念日

キャンパス日誌

2月

6日 英語英米文学科卒業論文発表会 (写真)



一般入試 (B日程、センター利用) 合格発表 (写真)



- 8日 職員採用試験 (1次)
- 10日 後期集中講義期間 (~2/15)
- 11日 春期休暇 (~3/31)
- 17日 後期末追試験 (~2/19)
- 21日 学内合同企業説明会 於: パーム館 (体育館)
(参加企業 69社) (写真)



- 24日 編入学試験 (2次募集)
社会人入学試験 (2次募集)
- 27日 編入学試験 (2次募集) 合格発表
社会人入試 (2次募集) 合格発表

~お詫び~

前号「北垣宗治学長退任インタビュー」の中で、誤りがございました。オリオン印刷機の石田社長夫人は同志社大学時代、北垣先生の授業の単位を2年生の時に修得されました。お詫びして訂正いたします。

3月

1日 人文社会科学研究所主催
「地球時代の良寛」座談会
司会: 若月忠信 特任教授
講師: 加藤徳一 新潟大学名誉教授、
延原時行 教授、
荒井魏 人文社会科学研究所客員研究員
於: 新発田市生涯学習センター (写真)



- 10日 一般入学試験 (C日程)
- 13日 一般入学試験 (C日程)
合格発表
- 17日 外国人留学生入試 (2次募集)
- 18日 外国人留学生入試合格発表
- 20日 第9回卒業式 13:00~ 於: 聖籠町町民会館
謝恩会 17:30~ 於: 新潟グランドホテル
(写真)



- 22日 北垣宗治学長さよなら講演会並びに送別の会
講演会: 新発田市生涯学習センター
送別の会: 新発田ベルナール (写真)



- 27日 学長退任式 於: S31教室
- 31日 学年終わり

CAMPUS

KEIWA チャレンジ学生ファイル③



右が佐野さん

英語英米文学科 3年

佐野 富子

『日本文化を知る』

私が茶道部に入部した理由は、高校生のときにオーストラリアにホームステイをした際、日本の良さを詳しく紹介できなかったからです。当時の私は海外への憧れのほうが強くて日本の良さに気付いていなかったのです。もっと早く気付いていればホストファミリーとの会話で話題に困ることもなかったのに今でも後悔しています。

敬和の多くの学生が海外に興味を持っていますが、私はそのような人たちに海外で日本を誇りに思えるように日本文化を知ることが勧めます。

いつかまた、オーストラリアに行ったとき、茶道を紹介できるようにになりたいと思います。

国際文化学科 4年

高井 健

『Keep The Faith』

綱引きを通じて、大学の友人と“勝つ”という共通の目的を持ち、感動を共に味わえたことは、自分自身の大きな思い出となりました。

始めは仲間同士のぶつかり合いもありました。練習をさぼって遊んでいた仲間、彼らも必死に練習している他の仲間を見て、気持ちを切り替え頑張ってくれました。

普段の練習の他にも、力のないものはウエイトトレーニング、体重の多いものは走り込みとみんなひそかに力をつけ、週1回の合同練習では、前回とは少し違う仲間の姿がありました。

こんな仲間たちと勝利できた喜びはなかなか味わえるものではありません。



先頭が高井くん

敬和学園大学

www.keiwa-c.ac.jp